

< 目次 >

- 1 【 学力向上 】 ノートの効用〔後編〕
 - 2 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 3 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

※ 配信日が、1日遅れましたこと。お詫び申し上げます。

★教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」を聴くことができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

★「Hand In Hand」コード譜をダウンロードすることができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/handinhandkoudo.pdf>

1 【 学力向上 】 ノートの効用〔後編〕

授業中、いつも元気に手をあげる子がいます。とてもいい発言をするのですが、感想文などの文章を書くことが苦手ということもあります。小学校のうちは、学習に対して意欲的な子として評価されても、自分の考えを深めていく中高校生になってくると「しっかり書ける」ことがと評価され、「書けない」と成績に影響していきます。

また、大学生になればレポートや卒業論文があり、社会人になれば報告書や企画書の作成が求められるなど、「自分で考えて書く力」は、生涯を通じて求められる力です。その“書くことに親しむ”きっかけをつくるものがノートであり、“書くことに慣れている”子どもは、落ち着いて授業を受けることができるようになります。

ノートには、3つの機能があります。記録、思考、練習です。学習した内容は1度では身につけません。“記録”に残し、くりかえし見直して知識としての定着を図っていきます。また、算数の応用問題では図に描いて考えながら解いたり、理科では仮説を立て、結論を導きだしたりするなど、ノートに書きながら“思考”を深めていきます。感想文や作文なども書きながら考え、自分の意見を見つけ出す作業です。

更に、計算や漢字は、何度も繰り返して“練習”することにより学習効果が高まっていきます。「ノートに書く＝記録・思考・練習」ということは、“勉強の基本”なのです。このように大切なノートですから、子どもが「もっと書きたくなる」ようにノートを褒めてあげてください。子どもが「ノートに書くことが好きになる」ように働きかけることが大切です。

低学年では正しい鉛筆の持ち方を身につけさせるように「三角鉛筆」を使うと正しい角度で力を入れずに持つことができるようになります。鉛筆は芯が柔らかい「B」または「2B」が良いです。芯が硬い鉛筆は余計な力が入るので疲れやすくなり、書くことが嫌になってしまいます。HBでは硬すぎて文字も細

くなり、小学生向きとは言えません。

鉛筆に配慮するなど書きやすい学習環境を整え、書いたら褒められて気持ちが良くなると、子どもは「書くことが好き」になっていきます。

2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) みんなさーん！「いわて希望の一步」を見ていただきましたか。

(振ちゃん) 「Hand In Hand」を元気に歌う子どもたちとコーラスサークルの皆さんにはじまり、平泉町、花巻市、釜石市の実践発表の様子が全県に紹介されました。

(教ちゃん) 釜石市教育委員会の白岩さんのコメントに、グッときたわ。

(振ちゃん) 将来を担う子どもたちのために、良い教育環境を整えてあげたい・・・と教育振興運動に取り組んでいる皆さんの思いを代弁してくださいました。

(教ちゃん) 平泉町は、子どもの減少や継続的・効果的な活動になっていないことから、組織の再編に取り組んだのよね。

(振ちゃん) 地域をあげての運動となるように広報にも力を入れているんだよ。

★平泉町の発表資料

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/hiraizumi.pdf>

★平泉町の広報「きょうしん」

⇒ 1号 <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/hiraizumi1.pdf>

⇒ 2号 <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/hiraizumi2.pdf>

(教ちゃん) 花巻市は、調査結果をもとにP D C Aサイクルで年間を通した取組をしたの。

(振ちゃん) うん。現状を把握したり、課題が解決したかどうかを判断したりする評価を数字で表わし、可視化に取り組んでいるんだ。

★花巻市の発表資料

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/syuyakuhanamaki.pdf>

(教ちゃん) 釜石市は、被災により「10か年プロジェクト」のとおり推進することはできない現状を踏まえたうえで、被災後の現状の把握から始めることで運動の再開に取り組みはじめたの。

(振ちゃん) 目の前の課題を把握し、その解決に取り組む“運動の原点”を示してくれました。

★釜石市の発表資料

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/syuyakukamaisi.pdf>

★釜石市の「生活リズムチェック」

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/kamaisiseikatu.pdf>

(教ちゃん) どの実践も素晴らしいものでした。発表された皆さんはその牽引役であり、とても頼もしく思いました。ありがとうございました。

(振ちゃん) 内陸・沿岸を問わず、運動を推進するうえでの課題を解決する手本を示していただきました。今一度、資料をご覧になっていただきたいと思います。

(教ちゃん) そして、皆さんで「いわて希望の一步」を踏み出しましょう！

3 【編集後記】あつしのひとりごと

平成26年度に50周年を迎える教育振興運動は、多くの県民の皆さんの力によって推進されてきました。そして、牽引されてきた先輩方は、教育振興運動の本質をととてもわかりやすい言葉で説明してくださっています。

○高橋 寛 先生・・・地域総ぐるみ（5者の連携）の取組について
『子どもの課題を、みんなでよってたかってやっつけるのよ！』

○松尾 弘一 先生・・・運動の組織のあり方について
『組織は、課題を解決するためのもの。課題に応じて作り変えていい』

○佐々木哲也 先生・・・運動の目的について
『教育振興運動は、大人が成長する大人の生涯学習である』

そして、平成20年7月30日に釜石地区合同庁舎で開催された釜石地区教育振興運動推進研修会における岩手県社会教育指導員等協議会長（当時）の中村利之先生のお話も心に残るものです。その要旨は以下の通りです。

『現在の県内における教育振興運動の活動は、本来の趣旨から外れています。運動と言うからには、“目標”があつて、その“目標の達成度”を評価して、次の年の活動につなげていかなければなりません。毎年のように「あいさつ運動の推進」を活動目標に掲げている組織では、いつまでもあいさつが定着していないことを意味しているようなものです。毎年、きちんとした形で活動の評価を行って、次の年につなげてください。』

（生涯学習情報誌「まなびい釜石」No. 63より）

○中村 利之 先生・・・運動のあり方について
『毎年同じ目標掲げるのは、いつまでも定着していないことを意味する』

皆さんの市町村の教育振興運動を振り返って、いかがでしょうか。また、これは、教育振興運動に限らず、私たちの仕事全般において言えることであり、身の引き締まる思いです。新年度を迎える前に、今一度噛みしめたいと思います。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

感想・意見・要望はこちら。⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第87号は、2月26日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～85号）はこちら。

⇒ http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga_backnumber.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenjirei.html>

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/shoukaijirei.html>

～～～配信元～～～

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。ロコミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～